

二〇一九年二月三日(日)

〔第1部〕 10時―12時 〔第2部〕 13時―15時

〔主催〕文化庁 京都精華大学国際マンガ研究センター

〔会場協力〕横手市／横手市増田まんが美術館

無料 先着 100名

〔出演者〕

〔第1部〕 研究報告

ヤマダトモコ (明治大学 米沢嘉博記念図書館)

表智之 (北九州市漫画ミュージアム)

倉持佳代子 (京都国際マンガミュージアム)

原正人 (一般財団法人パピエ (谷口ジロー) 著作権管理団体)

小野慎之介 (東洋美術学校)

〔第2部〕 シンポジウム

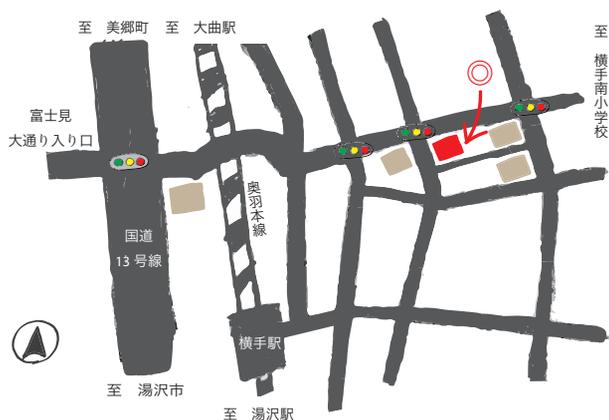
大石卓 (横手市増田まんが美術館)

吉村和真 (京都精華大学マンガ学部)

日高利泰 (京都大学大学院人間・環境学研究科)

イトウユウ (京都精華大学国際マンガ研究センター・司会)

【会場】横手市ふれあいセンター
かまくら館 2階 多目的ホール
〒013-0023 秋田県横手市中央町 8 番 12 号
TEL : 0182-33-7111 FAX : 0182-33-7113



【内容に関する問い合わせ先】京都国際マンガミュージアム
TEL:075-254-7414 FAX:075-254-7424

マンガが原画 アーカイブセンター(仮) の創設に向けて



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

平成30年度 文化庁メディア芸術連携促進事業連携共同事業「マンガ原画に関するアーカイブ(収集・整理・保存・利活用)および拠点形成の推進」関連シンポジウム

マンガが公的な文化として社会的に重視されている現代にあつて、近年、その〈原画〉(生原稿)の価値にも注目が集まりつつあります。

しかしながら、戦後マンガ文化を支えてきたマンガ家の逝去や出版不況の影響で、従来の〈原画〉の保管基盤が、ここ数年急速に崩壊しつつあります。また、海外と違って、日本国内におけるマンガ原画の価値付けは定まっているとは言えず、その結果、廃棄されたり、海外を含め四散流出したりといった状況を招く可能性が小さくありません。

1995年に創設された「横手市増田まんが美術館」は、開館当初よりマンガ原画の収集に力を入れ、近年は原画アーカイブを実践し、日本におけるこの問題に関する議論をリードしてきた、最重要マンガ関連文化施設のひとつです。

2019年5月のリニューアルオープンにあつては、高まる収集需要に対応すべく、原画収容点数を70万点に増やすなど、アーカイブ機能をパワーアップさせます。

さらには、全国のマンガ関連文化施設の、原画問題の窓口として、「マンガ原画アーカイブセンター(仮)」の併設も目指します。

シンポジウムでは、この「アーカイブセンター」の実現に向けて、その可能性や問題点などについて、議論します。議論の具体的な素材は、同事業に参加したマンガ関連文化施設等による、原画アーカイブの実践報告です。

また、東洋美術学校には、保存科学の観点から、紙やペンなどのマンガ画材を化学的に調査・分析した結果を発表してもらいます。

